

1. 全体計画（自治体全体でのSDGsの取組）

1.1 将来ビジョン

（1）地域の実態

（地域特性）

1 位置・概要

西尾市は、愛知県の中央を北から南へ流れる矢作川流域の南端に位置し、面積は 161.22km² で、中部圏の中心である名古屋市の 45km 圏域にある。

東に三ヶ根山などの山々が連なり、西に矢作川が流れ、南は三河湾を臨んでいる。実り豊かな大地と温暖な気候が相まって、縄文のころより人の暮らしが営まれてきた。

矢作川が形成した岡崎平野の最下流域にあり、矢作川のかつての本流（現矢作古川）に沿って形成された標高 10mまでの低地が広がり、東部には標高 348.8mの主峰三ヶ根山を頂点とする山地があり、三河湾内には、有人離島の佐久島や無人離島の梶島、前島、沖島が点在している。

歴史的には、鎌倉時代に足利義氏によって築かれたと伝えられる「西条城」は、この地域の拠点として発展を続け、「西尾城」と改称された江戸時代に城下町がつくられた。明和元(1764)年、大給松平家の居城となると六万石城下町として商業がさらににぎわいを見せるようになり、その栄華は祇園祭として有形無形で今も大切に残されている。

昭和 28(1953)年に市制を施行し、西三河南部地域の中核的な都市として自動車関連産業の発展とともに成長を続けてきた。一方で日本有数の生産量を誇る抹茶(てん茶)やカーネーション、養殖ウナギ、アサリなど農水産物の生産拠点としても発展している。

また、歴史的な史跡や名所が点在し、伝統的な祭りや芸能も多く伝えられているほか、三ヶ根山や三河湾に浮かぶ佐久島を含む一帯は三河湾国定公園に指定され、風光明媚な名勝となっている。

海・山・川に囲まれた豊かな自然環境の中で、地域に根ざした多様な文化と農・工・商のバランスのとれた産業を育てている。



三河湾



西尾市歴史公園



稲荷山茶園公園



佐久島

2 人口動態

総人口は、令和5(2023)年1月1日現在で170,325人であり、これまで増加基調にあったものの、新型コロナウイルス感染症の拡がりの影響もあり、平成31(2019)年4月以降は減少傾向に転じている。

にしお未来創造ビジョン(第8次西尾市総合計画)による将来人口では、企業誘致による転入者の増加などにより、令和12(2030)年頃までは人口はゆるやかに増加し、その後、減少局面へと転じ、令和14(2032)年には173,150人と令和2年(2020年)の人口より4,100人程度増加する見通しである。

年齢別の将来人口推計は、令和24(2042)年には老年人口の割合が30.5%となる見込みで、今後さらなる高齢者の増加、現役世代の減少が見込まれている。

総人口の6%程度を外国人人口が占めており、日本人人口が減少する中であって外国人人口の増加が顕著となっている。外国人人口は令和5(2023)年1月1日時点で10,357人と令和2(2020)年の9,710人から約650人の増加となっている。国籍別の内訳ではブラジル国籍が最も多く、近年ではベトナム国籍が急増している。

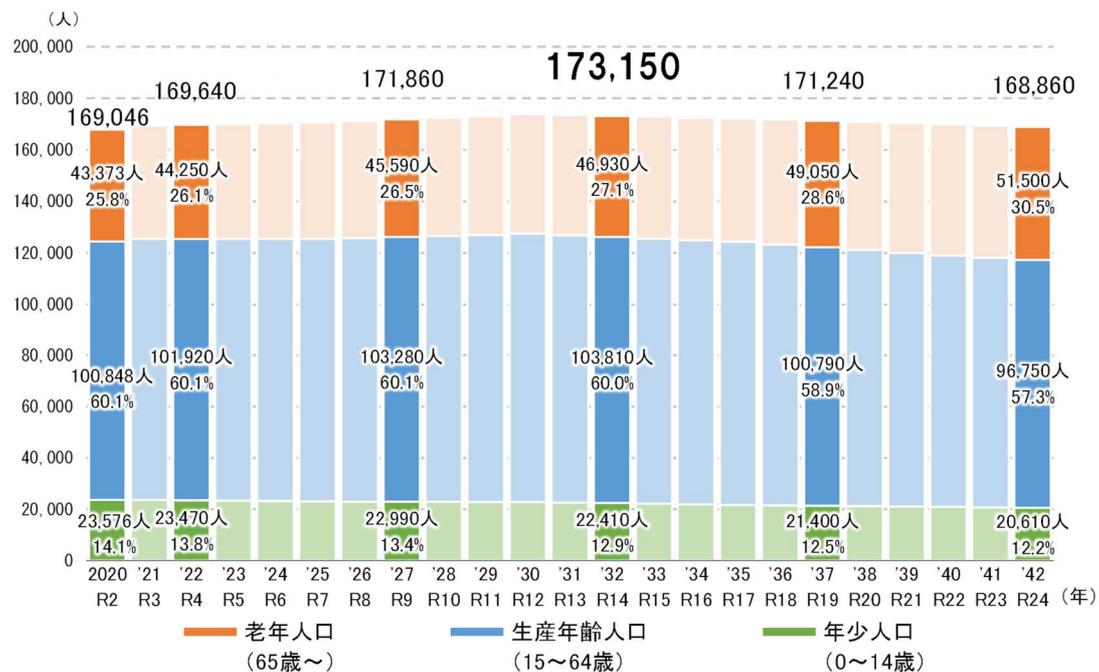


図 人口の将来展望(にしお未来創造ビジョン(第8次西尾市総合計画))

3 経済・社会・環境の現状

【経済】

西三河南部地域の中核的な都市として自動車関連産業を中心に発展を遂げており、一方で日本有数の生産量を誇る抹茶(てん茶)やカーネーション、養殖ウナギ、アサリなどの農水産業も盛んである。

産業構造をみると、自動車関連産業を中心とした第2次産業の集積が高いことが特徴であったが、徐々に観光業やサービス業などの第3次産業の割合が増えてきており、平成17

年(2005年)には第3次産業の就業者数が第2次産業の就業者数を上回った。第1次産業の就業者をみると、全国や県の値より構成比率は高いものの、就業者数は減少傾向となっている。

市内には「憩の農園」や「一色さかな広場」、「佐久島」、「吉良温泉」など歴史や文化、自然などに関連づけられた豊富な観光資源があり、年間350万人程度の観光入り込み客数がある。

【社会】

新型コロナウイルス感染症の発生により、本市も含めて日本経済に多大な影響を及ぼし、今後の景気状況は先行き不透明な状態にあり、今後も厳しい財政状況が見込まれている。

これまで堅調な人口増加を遂げてきた本市においても人口の減少局面に入り、今後は少子高齢化の一層の進展や外国人との共生などの地域課題への対応が求められる。地域において多様な人材が活躍でき、住民が誇りを持って自主・自立のまちづくりを実践できるように、地域の力を結集して魅力あるまちをつくり上げていくことが必要である。

公共サービスを提供する意欲と能力を備えた市民活動団体や企業などの多様な主体により担われる「新しい公共空間」が形成されつつあり、また、指定管理者制度や公共サービス改革法など、行政が直接担ってきた公共サービスを民間等が担う制度の導入も進められている。その他、地域の防災対策、安心安全な生活空間の確保、環境を重視した社会づくりなど、「公共」の担う範囲が拡大している。

【環境】

西尾市は市域の70%が緑に覆われている自然豊かなまちであり、水田や畑、特に本市の特徴である茶畑などの緑が多く存在する。市域の東部には樹林地、南部には養鰻場の水面も広がっている。また、三ヶ根山を含む三河湾国定公園周辺は、生物多様性の保全と持続可能な利用において重要な地域となっている一方で、近年の環境変化に伴い絶滅の危惧が高まる生物種もある。

ごみ排出量は、家庭系ごみ、事業系ごみのどちらも増加傾向にあり、市民1人1日あたりのごみ排出量は愛知県の平均値を上回っている。こうした状況を改善するため、リデュース(排出抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用)の3Rにリフューズ(発生回避)を加えた4Rの取組を推進している。

平成29年度からの10年間を計画期間とする第2次西尾市環境基本計画では、多様な生物を育む三河湾や矢作川、三ヶ根山や身近な里山といった本市の貴重な地域資源を次代に引き継ぎ、持続可能な社会を構築することを目標に、目指す環境像を「海・川・山 豊かな自然と暮らしがつながり とけあう 潤いに満ちたまちを未来へ」と定め、市民、事業者、行政全員の参加・協働により、環境保全施策の推進を図っている。

(今後取り組む課題)

1 農水産業と観光・サービス業との連携による地域経済の活性化【経済】

・西尾市は全国や愛知県の平均と比較すると第1次産業の就業者割合は高いものの、第3次産業就業者数が増加し、第1次・第2次産業の就業者数は減少している。自動車関連産業を中心とした産業構造の多角化を図るとともに、農商工連携や6次産業化などの取組を推進するなど、観光・サービス業などの第3次産業と、第1次・第2次産業の効果的な連携を図り、本市の特徴を生かした持続可能な地域経済の活性化に取り組んでいく必要がある。

・本市の製造業製造品出荷額は約 1.8 兆円の規模を誇るが、そのうち輸送用機械器具製造業が約8割を占め、その中でもエンジン系部品とトランスミッション部品に偏った産業構造となっている。DX(デジタルトランスフォーメーション)や 2050 年のカーボンニュートラル社会の到来など、変革の激しい時代においても産業の中心となり活躍し続けていくためには、SDGs の理念に沿った企業活動、生産へと転換していくことが重要な課題となっている。

2 少子高齢化の抑制、多様な主体の共創と生涯活躍の地域づくり【社会】

・今後さらなる高齢者の増加、現役世代の減少が見込まれており、高齢期においても地域において居場所や活躍の機会がある生涯活躍のまちづくりを進めるとともに、若者や女性、障害者や外国人など地域で共に暮らす多様な人々が共生できる、「誰一人取り残さない」社会を実現するため、お互いを認め合い、連携し共創により地域課題の解決に取り組める地域を築いていく必要がある。

・特に、近年は外国人の転入が多く、出生に占める外国人の割合も高くなっており、今後とも、本市の人口を維持・増加させていくためには、外国人にも定住しやすい環境が必要となる。外国人の労働者は主に製造業が中心であるが、永住者や定住者の外国人が増加するなか、他の産業でも外国人が活躍できるような環境を構築していくことが必要である。

3 資源有効活用、低炭素・脱炭素社会の実現、自然・文化の保全・活用・継承【環境】

・自然豊かな本市の魅力が次世代にも受け継ぎ、持続可能な地域を守っていくため、自然環境の保全を基本として、資源やエネルギーの有効活用、低炭素・脱炭素の社会づくりに取り組み、海・川・山などの自然とつながる豊かな暮らしを支える取組を進めていく必要がある。

(2) 2030 年のあるべき姿

【2030 年のあるべき姿】

本市は、東に三ヶ根山などの山々が連なり、西に矢作川が流れ、南は三河湾、佐久島を望む豊かな自然を有しており、人々は、肥沃な土地と温暖な気候から産み出される地域資源を享受し、生きがいを感じながら、学び、働き、暮らしている。

本市特有の強みである「豊かな自然」の魅力を磨き、常に創意工夫して活用することで、生き生きとした健やかな人々を増やし、新たな経済活動や環境保全への行動を呼び起こす契機となることを期待できる。

西尾を愛する人々を増やし、まちが活気とにぎわいにあふれ、西尾で暮らしたいと思う人々を増やし、さらに活気とにぎわいに満ちていく、そんな持続可能で好循環なまちづくりを進めることを想定しつつ、「にしお未来創造ビジョン(第8次西尾市総合計画)」に掲げる6つの基本目標と、SDGs に関する市民アンケート結果を参考として、市全体で SDGs を推進する取組を可視化するため、令和4(2022)年度中に策定する「にしお SDGs アクションプラン」から 2030 年のあるべき姿を設定する。

1 環境・社会・経済が循環するイメージのあるべき姿

にしお未来創造ビジョン(第8次西尾市総合計画) 基本目標

新たな魅力に挑戦するまち

誰もがほっとする持続可能なまち

ともに楽しみ、ともに学び、ともに夢みるまち

健康をつなげ 幸せがつながるまち

いのちを守る 暮らしを守る 環境を守るまち

誰もがキラキラと輝き、誇り・愛着の持てるまち

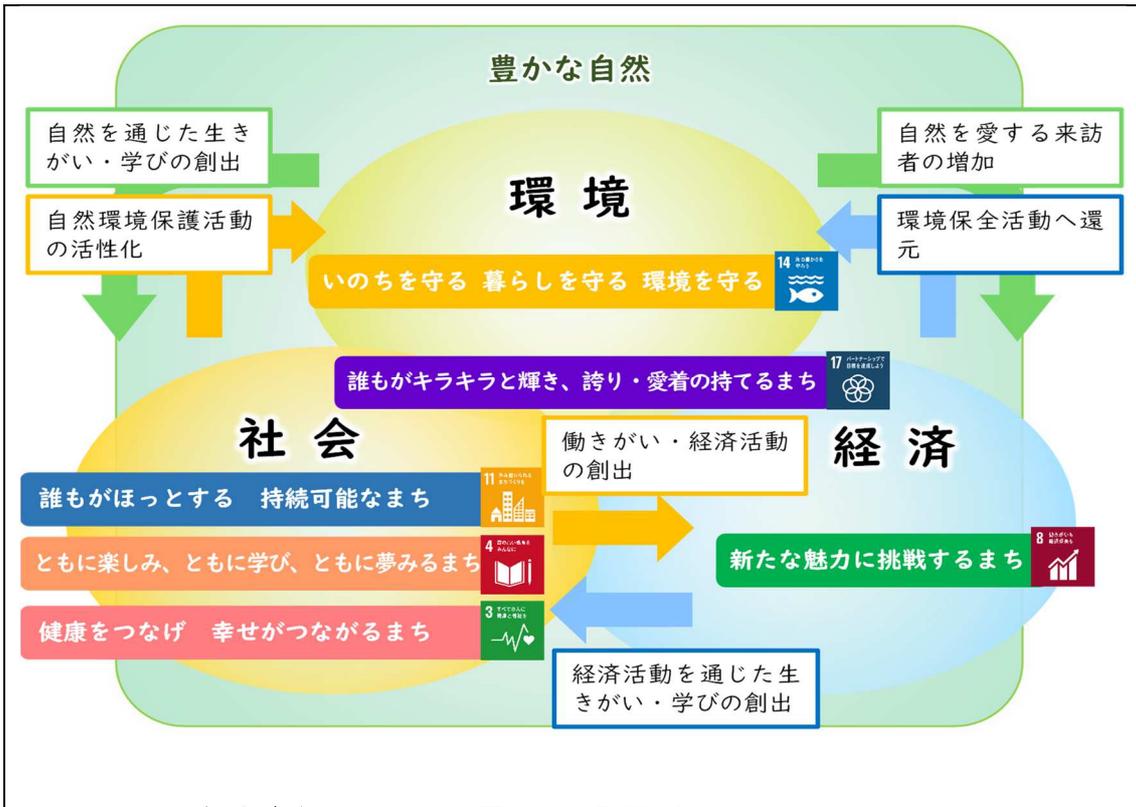
SDGs に関する市民アンケート(西尾市において積極的に推進すべきゴール)

ゴール 11「住み続けられるまちづくりを」(51.9%)
ゴール 3 「すべての人に健康と福祉を」(41.4%)
ゴール 8 「働きがいも経済成長も」(34.3%)
ゴール 4 「質の高い教育をみんなに」(25.4%)
ゴール 14「海の豊かさを守ろう」(24.9%)

※回答率の高い上位5ゴール

2030 年のあるべき姿

「豊かな自然」を「生きがい」「健康」「学び」「働きがい」につなぐ社会の構築



2 にしお未来創造ビジョン(第8次西尾市総合計画)との関連

【経済】に関連するにしお未来創造ビジョンの基本目標

新たな魅力に挑戦するまち

既存産業の振興や新産業の創出、Ai や IoT など新しい技術を活用した農業振興、歴史・文化の価値の再発見、スポーツ施設の整備など、市内にある豊富な資源を活用・ブラッシュアップし、それらを全世界に向けて発信し活性化していく、新しい魅力の創造・発掘・発信に挑み続けるまちを目指す。

【社会】に関連するにしお未来創造ビジョンの基本目標

誰もがほっとする持続可能なまち

西尾に暮らし、働き、学び、訪れる、あらゆる人にとって、気候変動が及ぼす影響にも不安を抱き怯えることのない「ほっと」する気持ちで暮らせるまちを目指す。

ともに楽しみ、ともに学び、ともに夢見るまち

親や子ども、友だち、みんながともに遊び、ともに楽しみながら子育てができ、子どもたちが健やかに育つまちを目指す。また、人生 100 年時代において、いくつになっても、ともに学ぶことができ、確かな学力を付けるための充実した教育と生きる力を育み、友だちや仲間とともにそれぞれの将来の夢に向かって一緒に考え、進んでいくことのできるまちを目指す。

健康をつなげ 幸せがつながるまち

地域がつながり、地域で支え合いつつ、市民が分け隔てなく笑顔で幸せがずっと続いていくまちを目指す。

【環境】に関連するにしお未来創造ビジョンの基本目標

いのちを守る 暮らしを守る 環境を守るまち

海や山、川といった豊かな自然環境を守り、潤いに満ちた暮らしを営むことができ、次代を担う世代が西尾の環境に誇りをもち、積極的にその保全に取り組むことができるまちを目指す。

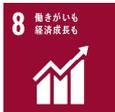
【ステークホルダーとのパートナーシップ】に関連するにしお未来創造ビジョンの基本目標

誰もがキラキラと輝き、誇り・愛着の持てるまち

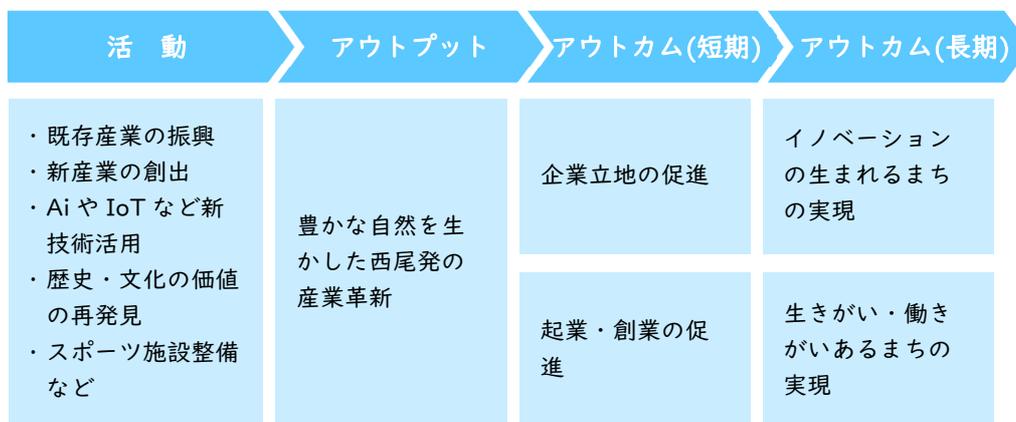
市民をはじめ、地域で活躍する団体や企業、行政などのあらゆる主体が、性別や年齢、国籍の垣根を越え、手を取り合い助け合って生涯活躍する、そのようなキラキラと輝く人であふれるまちを目指す。また、キラキラ輝く人たちがまちづくりの推進力となり、西尾の魅力発信やシビックプライドの醸成、カーボンニュートラル社会の形成に向けた取組をすることで、誰もが西尾に魅力を感じ、好きになり、愛着を持てるまちを目指す。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8 8, 3	指標: 企業立地件数 (企業立地の年間件数)	
	 9 9, 1	現在(2021年度): 6社
 8 8, 3	指標: 創業者数 (5者(西尾信用金庫、西尾商工会議所、一色町商工会、西尾みなみ商工会、西尾市)連携事業で創業相談に来た方のうち、創業した年間人数)	
	 9 9, 2	現在(2021年度): 21人

自然を身近に感じてふるさと西尾に愛着や誇りをもてるようにするとともに、豊かな自然を生かした魅力ある働く場をつくり、生きがい・働きがいのあるまちをつくる。

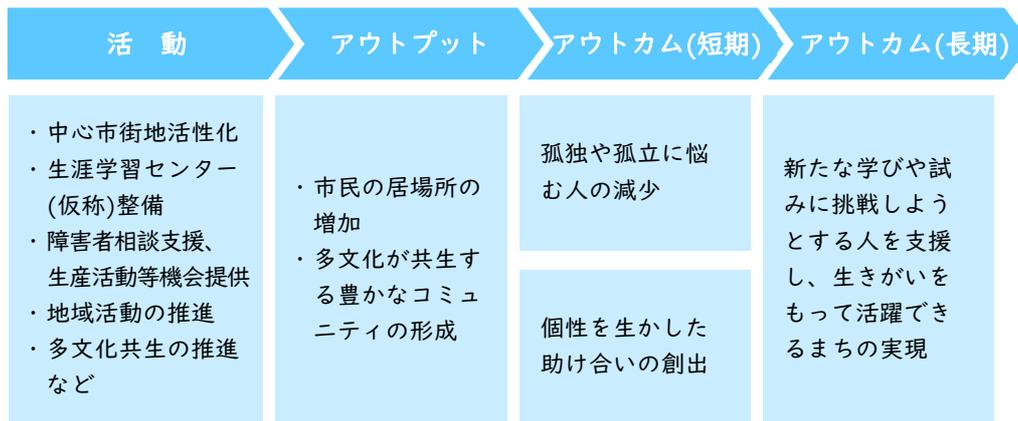


(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4 4, 3 4, 4	指標: 市民の居場所の数 (「6つの場(自分の部屋/家庭/学校/職場/地域/インターネット空間)」のうち居場所と思う数が3つ以上と回答した人の割合)	
	 11 11, 7	現在(2022年度): 85%

	11, 3	指標: 外国人の町内会活動 (町内会活動に外国人が参加している町内会割合)	
		現在(2021年度): 25%	2032年度: 40%

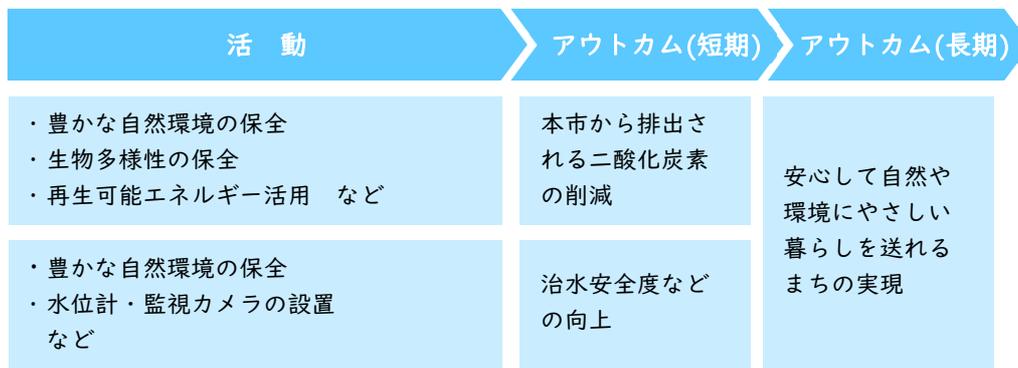
新たな学びや試みに挑戦しようとする人を支援し、生きがいをもって活躍できるまちをつくる。



(環境)

ゴール、ターゲット番号	KPI	
	13, 3	指標: 公共施設から排出される二酸化炭素削減量 (公共施設の LED 化による二酸化炭素の累計削減量)
		現在(2022年度): 195t-CO ₂
	13, 1	指標: 水位計・監視カメラの設置数 (市管理河川における水位計・監視カメラの累計設置数)
		現在(2022年度): 0 箇所

持続可能な社会の実現を支える重要な基盤であり、さまざまな恵みをもたらしてくれる、本市の豊かな自然を守り、市民が安心して自然や環境にやさしい暮らしを送れるようにする。



1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組		
経 済		
① 豊かな自然を生かした、生きがい・働きがいをつくる		
①-1 豊かな自然を生かした観光交流・関係人口の創出・拡大		
ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 9	指標: フィルムコミッションによる撮影誘致数(年間)	
	現在(2021年度): 0件	2026年度: 15件
■フィルムコミッションの推進 自然豊かな景観を背景に、フィルムコミッションによる映像作品のロケの撮影誘致を推進し、ロケツーリズムなどによる新たな観光交流の創出やシビックプライドの醸成による地域活性化を図る。		
■文化財や特産品などを活用した地域力創生 市内の文化財や抹茶、うなぎなどの特産品を活用し、観光振興や文化振興を図る事業を創生・推進する。		
■地産地消の推進 教育ファーム事業など食に関わる体験を通じて、食の大切さや地域の農畜水産物に対する愛着や誇りの醸成を図る。		
■自然を生かした魅力空間の創出 魅力あふれる自然環境を生かし、誰もが楽しめる・使える・つながる・学べる空間の創出を図る。空間の創出に併せ、自然体験アクティビティや環境学習講座の開発・提供・利用のルール化なども検討する。		
①-2 生きがい・働きがいある産業の育成		
ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 2 8, 3	指標: ふるさと納税の納税額(年間)	
	現在(2021年度): 15億円	2027年度: 25億円
■ふるさと納税の推進 うなぎや抹茶など市内に多くある特産品の魅力を積極的にPRし、地場産業の活性化と関係人口の創出を図る。ひいては、ふるさと納税の推進が、持続可能な産業の形成につながる。		
■攻めの企業誘致 雇用や付加価値額において、西尾市の産業基盤を大きく支える製造業を誘致するため、		

立地に向けた伴走支援を行い、市内企業の留置と市外企業の誘致を積極的に実施する。

■起業・創業・新産業創出の支援

SDGsなどの社会課題への対応やテクノロジーの変化などにより、大きく変わる産業構造やライフスタイルに対し、世の中に新しい価値を提供する新産業の創出や、起業・創業を支援する。

■農福連携

西三河農業協同組合や愛知県立にしお特別支援学校と連携し、農業を通じた障害者の自立支援に取り組むとともに、農業分野の新たな働き手の確保を図る。

■西尾発の産業革新

市内事業者のDXを積極的に支援し、企業の生産性向上や、農業・漁業へのテクノロジー活用、多様なサービス・事業創出をサポートする。積極的に官民連携を推進し、デジタル技術の活用により本市の個性を生かしながら、産業振興とまちの発展向上に取り組む。

■建築確認事前調査事務の効率化

建築確認申請に係る事業者負担の軽減と内部事務の効率化を図る。

■育てる漁業

稚貝や稚魚の放流などにより資源を管理し、「獲る漁業」から「育てる漁業」への転換と海域の環境整備を支援する。

■環境にやさしい農業

持続可能な農業を推進するため、二酸化炭素排出量を削減するなど環境にやさしい農業と、堆肥と飼料の地域での循環型農業の推進のため、耕畜連携を支援する。

社 会

② 新たな試みに挑戦する人が活躍できるまちをつくる

②-1 活躍する人・できる人をつくる

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 5, 3	指標: 女性活躍推進法・次世代育成支援対策法に基づく認証・登録企業数(年間)	
	現在(2021年度): 65社	2027年度: 70社
 17, 16	指標: にしおSDGsパートナー登録件数(累計)	
	現在(2022年度): 0団体	2027年度: 50団体

■全庁的な女性活躍の推進

女性の採用試験受験者の拡大や女性管理職の比率を高めて、職場での女性活躍を推進する。

■消防の女性受入体制の整備

消防施設などについて、女性用の仮眠室・トイレなど、環境整備を行う。

■書かない窓口システム

マイナンバーカードを活用して、窓口での手続きの簡略化や効率化を図る。

■利用者の視点に立った生涯学習施設の運営

施設名称、利用方法を統一し、分かりやすい施設に見直す。また、利用者を増やすため、利用対象を市内外の個人や団体に拡大する。

■にしお SDGs パートナーシップ制度(仮称)

西尾市と連携して取り組む企業、団体などにパートナー登録を促し、共創により SDGs を推進する。【詳細は後掲】

②-2 みんなの居場所づくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 11, 7	指標: 子ども・若者相談総合センター「コンパス」が行う居場所支援の延利用者数(年間)	
	現在(2021年度): 300人	2027年度: 550人
 10, 3	指標: 日本人における外国人との交流意向	
	現在(2021年度): 40.1%	2027年度: 50%
 10, 2	指標: e スポーツイベント・大会参加者数(年間)	
	現在(2021年度): 0人	2026年度: 1,000人

■あらゆる市民に対応した居場所づくり

あらゆる市民が、孤独や孤立などの悩みを相談できる体制の整備や人材育成に努め、個性を生かしながら、助け合うきっかけができる居場所をつくる。

■多文化に対応した居場所づくり

文化や言葉の違いなどにより、地域になじむことができず、孤独な思いを抱える人が交流できる居場所をつくるとともに、学校や社会に早期に適応するため、日本語教室を核とした居場所をつくる。

■多分野が連携した居場所づくり

西三河農業協同組合と愛知県立にしお特別支援学校の連携を皮切りに、農業を通じた障害者の自立支援に取り組むとともに、農業と高齢者や子どもなど、幅広い分野での連携を検討する。担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保にもつなげる。

■e スポーツの推進

年齢・国籍・時間・場所・障害の有無を問わず誰でも参加できるeスポーツを活用し、多文化共生の推進、高齢者の健康増進、障害者スポーツの促進を図り、誰もが暮らしやすいまちづくりを推進する。

環境

③ 豊かな自然を守り、やさしく暮らす

③-1 自然の恵みを守る

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 14, 2	指標: 外来種駆除活動参加者数(年間)	
 15, 5	現在(2019年度): 65人	2027年度: 100人
 7, 2	指標: 一般家庭における太陽光発電の設置件数(累計)	
	現在(2020年度): 6,983件	2027年度: 11,200件

■里山保全活動

里山の雑木の除伐や周辺を整備し、里山の自然環境と生物多様性の保全を図る。

■三河湾の環境保全

干潟の保全や水質汚濁の防止、漂着ごみ対策の推進など、三河湾の環境保全を推進する。

■環境にやさしいライフスタイルの実現

省エネ・省資源の普及啓発を行うなど市民意識を高めるとともに、低公害車の購入を補助し、省エネ・温室効果ガスの排出抑制を推進する。

■ゼロカーボンの推進

公共施設において、LED照明や再生可能エネルギーの導入などを検討するとともに、グリーンカーボン・ブルーカーボンの取組を推進する。

■再生可能エネルギーの利用促進

新たなエネルギーの利用を図るため、一般家庭への太陽光発電設備の普及を促進する。

③-2 環境にやさしい暮らしを送る

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 12, 3	指標: 処理しなければならない市民一人一日当たりのごみ排出量	
	現在(2019年度): 956g	2026年度: 940g
 13, 1	指標: 低公害車購入補助件数(年間)	
	現在(2020年度): 42件	2027年度: 50件

■ごみの減量・資源化

食品ロスの削減を推進し、生ごみ減量のためにぼかしの無料配布を実施する。

■家並み保存活動

佐久島において島内外のボランティアと協働し、板壁へのペンキ塗りによる家並みの保存活動を実施する。

■環境にやさしいライフスタイルの実現

低公害車の購入補助により、省エネルギーと温室効果ガスの排出抑制を推進する。

(2) 情報発信

(域内向け)

1. 西尾市ホームページ、SNS、普及啓発チラシ等の活用

西尾市ホームページ内に「にしおSDGs特設サイト(仮称)」を制作し、本サイトを活用した情報発信・PRを行う。併せて、SNSを積極的に活用するほか、SDGs普及啓発チラシを全戸配布するなど、全市民へのSDGsの情報発信を行う。

2. 各種イベント等を通じた市民・事業者・市職員への周知・啓発

市民や事業者などが、SDGsや西尾市の環境について、カードゲームや講演を通じて身近な問題として考えることができるよう、SDGs関連イベントを企画・実施し、SDGsの周知・啓発を図る。また、SDGsの視点を市政に生かすための職員研修を引き続き実施するとともに、市議会議員向けの研修を開催し、本市のSDGsに関する考え方を共有することで、市全体としての一体的な取組を推進する。

3. 職員による出前講座

西尾市では、市内在住、在勤、在学の人向けの出前講座を行っており、SDGsをテーマにした出前講座を実施することで、本市のSDGsに関する取組などを紹介する。

(域外向け(国内))

1. 西三河地域の自治体との連携

本市を含む9市1町からなる西三河地域においては、既にSDGs未来都市に選定されている豊田市や岡崎市、安城市などとの協力体制により、西三河全体での情報共有や意見

交換を行う。

2. SDGs関連イベントへの参加

令和4(2022)年度は昨年度、一昨年度に引き続き、「SDGs AICHI EXPO 2022」に出展し、佐久島での藻場の再生活動、里山保全活動、海岸清掃を島外ボランティアと協力して行う保全活動と啓発活動などの紹介を行ったほか、海岸に打ちあげられたガラス片を使ったシーグラスを販売し、そこで得た収益は漂着ごみ等の処分費用とした。今後もこのようなSDGs関連イベントに参加し、本市のSDGsの取組を周知していく。

なお、今回は本市同様有人離島を所管する南知多町、愛知県との合同出展であった。今後も他自治体等との連携を図りながらの展開を積極的に検討していく。

(海外向け)

本市では特産品の販路開拓をタイや台湾で展開しており、そうした取組との連携を図りつつ、海外に向けて本市のSDGsの情報発信を行う。

(3)全体計画の普及展開性

(他の地域への普及展開性)

佐久島は人口減少・少子高齢化が急速に進行し、気候変動等により豊かな自然・生態系が脅かされるなど、将来の我が国の課題先進地であり、日本の縮図ともいえる離島・佐久島を中心とした本市の豊かな自然環境を市民の生きがい等へ循環させる取組は、今後、国内の有人離島や人口減少が見込まれる多くの地方都市で展開することが可能である。

1.3 推進体制

(1) 各種計画への反映

1. 総合計画

- ・現行の第7次西尾市総合計画(後期計画の計画期間平成 30(2018)年度～令和4(2022)年度)の計画期間が間もなく満了するため、計画期間を令和5(2023)年度を初年度とするにしお未来創造ビジョン(第8次西尾市総合計画)を令和4(2022)年12月に策定した。
- ・SDGsの「誰一人取り残さない」という理念は、にしお未来創造ビジョンにおける「心の豊かさや人とのつながり」、「多様な主体の活躍」、「官民連携」、「あるものを生かす」まちづくりの視点や、将来都市像の「もっとワクワクするまちにしお」の考え方に通ずるものがあり、今後はSDGsの推進に資する取組やモデル事業の内容を踏まえて施策・事業を実施する予定である。

2. 総合戦略

- ・西尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、平成28(2016)年3月に、人口減少の克服と地域の自立かつ持続的な活性化に向けた施策・事業を体系的に整理した計画として策定し、現在、計画期間を令和3(2021)年度から令和7(2025)年度の5年間とする「第2期西尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を進めているところである。
- ・第2期総合戦略では、総合戦略の推進を図ることがSDGsの目標達成にも資することから、SDGsの視点を持った施策を検討し、SDGsを原動力とした、魅力的なまちづくりを進めていくことを基本的な方針として、SDGsにおける17のゴールとの関係を整理し、その達成に向けた取組を位置づけている。

3. にしおSDGsアクションプラン

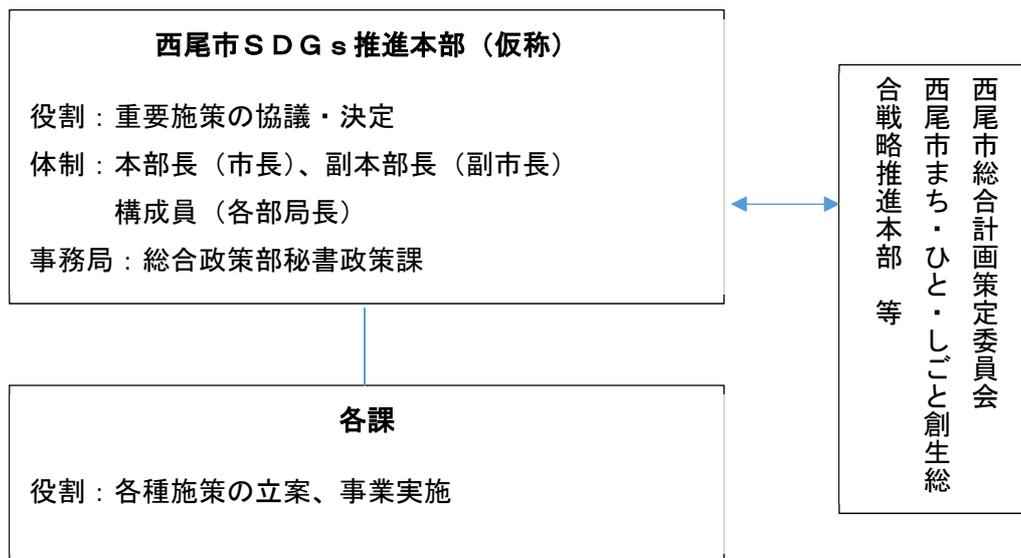
- ・総合計画・総合戦略に体系づけられた理念・目標や政策・施策をSDGsの視点から再構成し、SDGsの各ゴールの達成に向けた西尾市のビジョンと取組を可視化するとともに、SDGsの理念や意義を市民や事業者と広く共有し、さまざまなステークホルダーと連携を図り、SDGsを推進する機運を醸成するため、西尾市版ローカルSDGsの指針として令和4(2022)年度において「にしおSDGsアクションプラン」の策定を進めている。

4. その他の各種計画

- ・本市においては、その他の各種計画においても、計画に位置づける施策・事業などとSDGsの17のゴールとの関係を整理している。また、今後策定を予定している計画においても、SDGsとの関係性を整理していく予定である。

(2) 行政体内部の執行体制

「西尾市SDGs未来都市計画」の推進にあたり、市長を本部長、副市長を副本部長とし、その他各部局長で構成する「西尾市SDGs推進本部(仮称)」を設置し、「西尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部」、「西尾市総合計画策定委員会」等との連携のもとに、SDGsの推進を各部局の横断的な連携により全庁的に取り組む体制を構築する。「西尾市SDGs推進本部(仮称)」での協議・決定事項等は庁内へ周知し共有を図る。



【体制図】

(3) ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

下記企業等とSDGsに関連する連携協定の締結や、企業版ふるさと納税によって、SDGs達成に向けた取組を推進している。

主体名	連携内容
新三商事株式会社	企業版ふるさと納税(学校におけるICT環境の整備と活用)
サンエイ株式会社	企業版ふるさと納税(学校におけるICT環境の整備と活用、保育園・幼稚園におけるICT化事業)
医療法人清翔会	企業版ふるさと納税(保育園・幼稚園におけるICT化事業)
AZAPA エンジニアリング株式会社	企業版ふるさと納税(佐久島活性化事業)
日本郵船株式会社	企業版ふるさと納税(佐久島活性化事業(藻場再生活動))
安藤株式会社	企業版ふるさと納税(新産業創出人材育成事業)
信金中央金庫	企業版ふるさと納税(スポーツを核とした健康まちづくり事業(フルマラソン))

西尾信用金庫	SDGs の推進を含む包括連携協定を締結
西三河農業協同組合	農福連携など
認定 NPO 法人改革プロジェクトパトラン JAPAN パトラン西尾チーム	SDGs の推進を含む包括連携協定を締結
大塚製薬株式会社	SDGs の推進を含む包括連携協定を締結
明治安田生命保険相互 会社	SDGs の推進を含む包括連携協定を締結
AZAPA エンジニアリング 株式会社	佐久島における SDGs の推進(島民の移動手段)に係る連 携協定を締結
株式会社スギ薬局	ヘルスツーリズムの推進等に係る包括連携協定を締結
ソフトバンク株式会社	教育や子育て支援等に係る包括連携協定を締結
中部電力グループ	再生可能エネルギーの活用や農福連携の検討

2. 国内の自治体

西三河地域における市町との連携をはじめ、県内外の友好都市、各分野でのつながりを生かした市町村との連携を図る。

①西三河地域における都市間連携

先行して未来都市となっている豊田市・岡崎市・安城市など、西三河地域の市町と情報交換や施策・事業実施にあたっての連携を図る。

②その他の友好都市・連携都市

その他の県内の未来都市(愛知県、名古屋市、豊橋市)や、離島のつながりを生かした自治体との情報交換や施策・事業実施にあたっての連携を図る。

3. 海外の主体

特産品の販路開拓を展開しているタイや台湾での情報交換や施策・事業実施にあたっての連携を図る。

(4) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

1. SDGs普及啓発チラシを市民対象に展開

市民一人ひとりに SDGsを自分ごとと捉えてもらい、達成に向けて取り組んでいただくことを目的として、令和4（2022）年度に策定する「にしお SDGs アクションプラン」の概要版を全戸配布する。個々の取組が職場や学校、家庭などに波及し、市全体で SDGsを推進する機運を醸成することが自律的好循環へのきっかけとなる。

2. SDGs推進企業・団体等の登録制度の構築

本市においてSDGsの取組を広く進めていく上では、民間企業等の積極的な関与が不可欠である。そのため、民間企業等が率先してSDGsに資する取組を進めていくことができるよう、SDGsの理念に相応しい活動を行っている企業等をパートナーとする「にしお SDGs パートナーシップ制度(仮称)」を構築する。

当制度においては、民間企業等と連携し企業が製造・提供するサービス、環境活動などについてSDGsの視点で評価を行い、SDGsの適合性が高い企業等を市のHPで広く公開していくとともに、市HPや広報紙の広告枠の優先的な割当など、各種優遇策を検討していく。また、特に優れた取組を行っている企業については、市との連携協定の締結などにより相互の活動の支援を検討する。その他、包括連携協定を締結する西尾信用金庫と連携し、SDGsに特化した金融支援を検討する。こうしたインセンティブの展開により、企業等の自律的なSDGsの取組を促す。

また、オリジナルの SDGsロゴマークを作成し、令和5年度より運用開始を予定する。パートナーに使用してもらうことで、SDGsの普及促進を図るとともに当該パートナーの活動PRとなり、さらなるSDGsに対する意識向上が期待できる。

※にしお SDGsロゴマーク(案)

西尾市の木「くすのき」をモチーフに、SDGsのゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」を幹として、各ゴールが大きく成長していく様子を表現。

比較的大きな5つの葉・実は、市民アンケートにおける「西尾市において積極的に推進すべきゴール」であり、市民の思いとリンクしたデザインとする予定。



にしおSDGs
ロゴマーク
(案)

3. 民間企業と連携したトップダウンによるSDGs推進支援の展開

民間企業が率先してSDGsに資する取組を進めていくためには、企業のトップの理解を得ることが不可欠となる。特に、本市の企業の多くを占める中堅・中小企業においては、企業トップの意向がその企業の活動に大きな影響を及ぼすため、中堅・中小企業のトップへの意識改革が重要である。

そこで、包括連携協定を締結しており、地域密着型金融を推進する西尾信用金庫とともに、地元企業がSDGsに取り組む意義を学べる場として、経営者を含めた社員全員がSDGsを理解する勉強会やセミナーなどの機会を提供し企業等の意識改革を促していく。

4. 金融リテラシー教育の展開展開

包括連携協定を締結する西尾信用金庫と連携し、若者の金融教育及び金融包摂の重要性に対する問題意識を高めるため、高校生を対象とした金融教育出張授業など、金融リテラシー教育を展開する。

5. 民間企業を起点としたSDGs意識の自律的展開

上記4つの取組を通じて、個人、企業・団体等が率先してSDGsに取り組んでいくことで、未来を担う若者を含めたそれぞれのステークホルダーがSDGsの理念を理解し、理念に沿った行動へと誘導することが可能となり、さらにそのステークホルダーの周囲への波及効果にも期待でき、SDGsの理念に沿った行動へと誘導することが可能となる。

2. 自治体SDGsモデル事業（特に注力する先導的取組）

2.1 自治体SDGsモデル事業での取組提案

(1) 課題・目標設定と取組の概要

(自治体SDGsモデル事業名)

素材は離島！ 佐久島(離島)×未来を担う若者＝エシカルなアート

(課題・目標設定)

ゴール4、ターゲット7

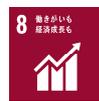
ゴール8、ターゲット9

ゴール11、ターゲットa

ゴール12、ターゲット5

ゴール14、ターゲット2, 3

ゴール15、ターゲット1, 2, 4, 5



人口約200人の小さな島・佐久島では、島の8割以上が里山で、豊かな自然と昔ながらの懐かしい集落の風景が残っており、島の貴重な地域資源であり魅力である豊かな自然や海洋環境を後世に保全・継承していくため、また、この自然や海洋環境に生まれた豊かな暮らしを守り・継承していくため、これまで長きにわたって、アマモの藻場再生活動をはじめとして、SDGsの理念に通ずる環境保全活動などが行われてきた。

本プロジェクトは、官民共創により、この小さな島からはじまったSDGsの理念に通ずる取組をさらに拡充し、西尾市内全域へと展開させることにより、自然・海洋環境の保全を通じたブルーカーボンとともに里山の再生等によるグリーンカーボンを推進するほか、共生型社会の形成等につながるSDGsの理念や考え方を全市に波及させ、多様な主体が共生し安心して暮らし続けることができる持続可能な「SDGs未来都市にしお」を実現することを目標とする。

(取組概要)※150文字

過疎高齢化が進む離島「佐久島」から、多様なステークホルダーとともに島特有の社会や環境、地域を配慮したエシカルなアートを制作し、島内及び市内の商業施設等で展示し、SDGs イベントを併せて開催することで、市全体でSDGs 達成を図る機運醸成と関係・交流人口の増加、消費の拡大といった地方創生につなげる。

(全体計画への効果)

本市においては、過疎高齢化が進む佐久島において、長きにわたって、SDGsの理念に通ずる環境保全活動などが行われてきているが、これまで市全体への取組の波及に課題を抱えており、SDGsに関する市民アンケート結果ではSDGsに対する認知度約85%に対し、関心度は56%と、認知度と比較して関心度が低い状況にある。

本モデル事業では、佐久島での取組を市全域から市外へも波及させるため、市外の[]の学生との連携で、佐久島を素材としたエシカルなアートを制作し、島内で一定期間展示した後、市内の商業施設などに展示し、市内や[]のステークホルダーなど多くの市外の人々の目に触れる機会を創出する。併せて佐久島での取組に携わる多くのステークホルダーの存在やその思い、SDGsを推進する機運を醸成するため、西尾市版ローカルSDGsの指針として策定した「にしおSDGsアクションプラン」の周知を図るイベントを開催することで、以下の課題解決や啓発の効果の発現を図る。

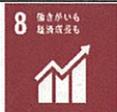
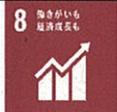
1) 2030年のあるべき姿「豊かな自然」を「生きがい」「健康」「学び」「働きがい」につなぐ社会の構築に取り組んでいる、佐久島の事業を周知するとともに、ステークホルダーと2030年のあるべき姿を共有する。

2) 市民のSDGsへの関心度及び理解度を高め、ONE西尾でSDGsに取り組む機運を醸成する。

(2) 三側面の取組

① 経済面の取組

佐久島の豊かな環境の保全・継承に配慮しつつ、地域資源や魅力を生かした持続可能な観光交流の促進、関係人口(観光客、ボランティア、イベント参加等)の創出・拡大を図り、島の経済発展を実現するとともに、市内全域での観光交流の促進により、関係人口の創出・拡大につなげていく。

ゴール、 ターゲット番号	KPI
 8, 9	指標: 交流人口(観光入込客数)
	現在(2021年): 264万人 2026年: 400万人
 8, 9	指標: 島民を除く佐久島渡船の利用者数(年間)
	現在(2021年度): 163,554人 2026年度: 192,000人
 8, 9	指標: エコツーリズムへの参加者数(年間)
	現在(2021年度): 815人 2026年度: 2,500人

①-1 エシカルなアートを活用したイベントの開催

佐久島を素材としたエシカルなアートを、市内の商業施設などに展示し、多くの市民の目に触れる機会を創出するとともに、併せて佐久島での取組に携わる多くのステークホルダーの存在やその思い、SDGsを推進する機運を醸成するため、西尾市版ローカルSDGsの指針として策定した「にしおSDGsアクションプラン」の周知、啓発を図るイベントを開催する。

展示するエシカルなアートは、未来を担う学生()との連携で作品性を高め、市民の文化芸術に触れる機会を担保し、見た人の心を揺さぶり、根源的な力を引き出すとともに、イベントにおける啓発活動や販売、展示後の別施設などへの展示を可能とし、収益は環境保全活動などへと還元することで、経済と環境の好循環を目指す。

①-2 遊休農地を活用したサツマイモ(サクのいも)の栽培、特産品開発

佐久島の遊休農地は、生態系を守り、土地がやせない様に活用するため、サツマイモを栽培し「サクのいも」としてブランド化し発信する。佐久島ならではの土産品が無いため、サクのいもを活用した焼酎、加工品などの販売を考え、働きがいある新たな雇用や収益を創出するとともに、交流・関係人口の創出・拡大を図る。

①-3 カラフルツーリズムの展開

農業や漁業体験を楽しみ、地域住民との交流を図るグリーンツーリズムや、島しょ部や沿岸部に滞在し、マリンレジャーを楽しめるブルーツーリズム、健康の回復や健康増進を図る健康ツーリズムなどさまざまなツーリズムを展開し、育んだ豊かな自然環境の中で行う保全活動に参加しながら、交流・関係人口の創出・拡大へと展開する。

本市の観光は、特産品の「抹茶」、「うなぎ」、「えびせんべい」などの買物や食事目的が多く、滞在時間が短いために、多様な資源を十分生かすことができず、観光消費も限定的なものになっており、また、本市の推定知名度は23%程度と低く、知名度の低さも滞在時間が短い要因となっていることから、戦略的にデジタルを活用し、データや根拠に基づいた、年齢や国籍など属性別の的確な観光プロモーションを展開し、カラフルツーリズムの活性化を図る

(事業費)

3年間(2023~2025年)総額:48,000千円

② 社会面の取組

島民等との共創により小さな島だからこそできる共生型社会の形成に向けた先導的な取組を実践するとともに、島でのモデル的な取組を市内全域に展開し、多様な主体・多世代・多文化が共生し安心して暮らし続けられる地域づくりを実現する。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4, 7	環境学習講座の参加者数(年間)	
	現在(2019年度): 209人	2027年: 230人
 11, a	指標: 地域おこし協力隊の隊員数(累計)	
	現在(2021年度): 2人	2027年度: 6人

②-1 環境学習の推進

環境保全へのきっかけづくりと地域の人材育成を図るため、環境学習講座を開催しSDGsの取組の啓発活動及び環境保全活動の活性化を図る。

②-2 市民の居場所・活動の場の提供

文化や言葉の違いなどから、孤独や孤立などの悩みを抱えている人が相談・交流できる体制の整備や人材育成に努め、個性を生かしながら、助け合うきっかけができる居場所づくりにより、環境保全活動など、様々な活動の基盤となる活発な地域コミュニティを育む。

②-3 地域おこし協力隊の活用

地域おこし協力隊制度を活用し、佐久島の活性化、定住促進などの活動を推進する担い手を確保するとともに、移住者としての新たな視点で佐久島の魅力を捉え、情報発信することで、多様な主体の参画による地域づくりを推進する。

(事業費)

3年間(2023～2025年)総額: 40,100千円

③ 環境面の取組

佐久島の豊かな自然や海洋環境を後世に継承していくため、藻場の再生や海ゴミの削減等の取組を実践し、島の自然環境や豊かな海を守っていくとともに、島から始まった環境保全の取組を島外へ展開し、西尾市全体でのブルーカーボン・グリーンカーボン事業として推進する。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 14, 2 14, 3	指標: アマモ移植による藻場の再生活動の参加者数(年間)	
	現在(2022年度): 130人	2025年度: 200人

③-1 海洋・里山環境の保全活動の推進

地域住民団体、佐久島しおさい学校(佐久島にある公立の義務教育学校)、市内外ボランティア、企業版ふるさと納税をいただいた企業などと連携し、アマモ移植による藻場の再生、里山保全、海ゴミの削減等を実施し、佐久島の海洋・里山環境の保全を図る。

佐久島で平成15年度から継続して取り組んでいるアマモ移植活動については、海中の二酸化炭素を吸収し、産卵場や稚魚を育み、水質浄化する働きを促し、豊かな海へとつながるため、活動可能な沿岸部へも普及することにより市全体のブルーカーボン事業として展開する。

その他、佐久島活性化を担う任意団体「島を美しくつくる会」が取り組む、海ごみ削減活動、里山保全活動や、交通弱者のためのシニアカーの自動運転、海水の淡水化による安定給水の検討など、小さな島から取組が始まっているローカルSDGs事業の情報発信を行い、市全域への周知・啓発と活動の展開を図る。

③-2 佐久島を素材としたエシカルなアート制作

アートの島である佐久島の特徴を生かし、XXXXXXXXXXと連携の上、佐久島を素材として、佐久島を学び、海岸清掃活動などで集めたゴミなどを活用したエシカルなアートを制作する。制作したアートは島内、市内の商業施設などで展示し、市民に広くSDGsの意識啓発を行うほか、展示終了後の作品をゴミとしない活用までを作品とし、本質的な資源循環から持続可能なまちづくりへのつながりを周知する。

(事業費)

3年間(2023~2025年)総額: 17,218千円

(3)三側面をつなぐ統合的取組
(3-1)統合的取組の事業名(自治体SDGs補助金対象事業)
<p>(統合的取組の事業名) にしお SDGs プラットフォーム(仮称)の構築</p> <p>(取組概要)※150文字 にしお SDGs パートナーシップ制度(仮称)【詳細は前掲】への登録企業・団体等をベースに、自治体 SDGs モデル事業を推進する中核組織となるプラットフォームを形成し、多様なステークホルダーとの共創により、経済・社会・環境が循環する地域づくりモデルを構築する。</p> <p>(事業費) 3年間(2023~2025年)総額:16,000千円</p> <p>(統合的取組による全体最適化の概要及びその過程における工夫) 自治体 SDGs モデル事業は、環境保全活動、遊休農地の活用など環境面での取組を、イベントの開催や豊かな自然環境を生かしたカラフルツーリズムなどの経済面での取組へ展開することにより、収益化を視野に入れるとともに、観光交流人口、関係人口の創出・拡大を図る。こうした取組を通じて、佐久島での SDGs 活動に対する市民の認知度・関心度を高め、資源分担など日々の SDGs を心がけた暮らしや環境保全活動への参加促進へとつなげていく。 これらの取組を統合的に推進するプラットフォームの構築により、経済、社会、環境の三側面における各施策の相乗効果を生み出し好循環につなげる計画である。 SDGs を推進するプラットフォームは、多くのステークホルダーの参画と機動性の両立を図るため、市内で SDGs の推進に資する事業を展開している企業・団体等を募集・登録する「にしお SDGs パートナーシップ制度(仮称)」登録企業・団体等から、自治体 SDGs モデル事業に中核的に取り組むステークホルダーで構成する。このような体制とすることで、多くの市民・企業などとの共創による SDGs を推進することが可能となる。</p>

(3-2) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)

(3-2-1) 経済⇄環境

(経済→環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: 川と海のクリーン大作戦参加者数(年間)	
現在(2019年度): 2,179人	2027年: 2,700人

「佐久島のアートを生かしたSDGsの取組」をはじめ、「佐久島を中心としたサステナブルツーリズム」や「健康ツーリズム」等を利用して佐久島など西尾市へ来訪した人に対して、アマモ移植による藻場の再生、海岸の漂着ゴミ清掃等への参加を呼び掛けるとともに、活動参加者へのアンケートにより自然環境保全に対する意向やニーズを把握して、今後の環境保全及び啓発活動の効果的な実施に向けた企画立案、実施内容・方法等の改善に反映する。

ニーズ把握の際などに、伊勢湾・三河湾に流れ込む河川(支川含む)及び海岸で実施されている「川と海のクリーン大作戦」など、市内における環境保全活動について情報発信し、市全域への取組の展開を図る。

この相乗効果は、統合的取組で構築する「にしおSDGsパートナーシップ制度(仮称)」に登録したパートナーと連携して取り組むことで得ることができる。

(環境→経済)

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: 一色さかな広場入込客数(年間)	
現在(2021年): 637,900人	2026年: 725,000人

「佐久島活性化事業(藻場の再生活動、里山の保全活動など)」の成果をもとに、佐久島及び西尾市の自然や海洋環境、里山環境などの魅力を生かした新たな観光商品の開発や付加価値の創出につなげるとともに、本市の多様な魅力を感じられる動画の作成や、YouTubeを始め、SNS広告などによる効果的かつ効率的な情報発信を行い、環境保全活動への参加者が、三河湾で水揚げされた魚介類や特産品を販売する「一色さかな広場」での食事や買い物を楽しむなどの広域観光への展開を図る。なお、「一色さかな広場」は佐久島への玄関口「佐久島行船のりば」に隣接しているため、佐久島への来訪者の増加とも密接にリンクする。

この相乗効果は、統合的取組で構築する「にしおSDGsパートナーシップ制度(仮称)」で認証したパートナーと連携して取り組むことで効果的に得ることができる。

(3-2-2) 経済⇄社会

(経済→社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 西尾産農畜水産物を優先購入する人の割合	
現在(2021年度): 45%	2026年度: 60%

統合的取組により、SDGsに取り組む市内企業などに対する市民の認知度・関心度が高まることで、市内の産業に対する愛着や誇りを育み、市内産品に対する優先購入につながる。

(社会→経済)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 1次産業の新規就業者数(累計)	
現在(2021年度): 20人	2026年度: 60人

統合的取組が、優良農地や水産資源の確保を促し、生産性が向上することで、持続可能な稼げる1次産業の基盤が形成され、新たな担い手など新規就業につながる。

(3-2-3) 社会⇄環境

(社会→環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: 西尾いきものふれあいの里利用者数(年間)	
現在(2020年度): 14,403人	2027年度: 17,000人
指標: 自然観察会などの参加者数(年間)	
現在(2020年度): 224人	2027年度: 700人

佐久島におけるSDGsの取組を、あらゆるステークホルダーを巻き込み取り組むとともに、市全体に発信することで、市民のSDGsへの関心度が向上し、環境学習や環境保全活動への参加につながる。

(環境→社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 市民の愛着度(10 点満点)	
現在(2020 年度): 5.9	2026 年度: 6.5

統合的取組により、あらゆるステークホルダーの環境問題や SDGs への関心度が高まり、SDGs に配慮したライフスタイルやビジネススタイルへの変容が促進され、2030 年のあるべき姿である「豊かな自然」を「生きがい」「健康」「学び」「働きがい」につなぐ社会の構築が実現し、本市への市民の愛着度向上につながる。

(4) 多様なステークホルダーとの連携

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
島を美しくつくる会	佐久島を中心としたサステナブルツーリズムの推進、佐久島における共生型社会形成の取組、佐久島活性化事業等における連携
佐久島観光の会	佐久島活性化事業等における連携
島の未来をつくろう会	佐久島活性化事業等における連携
一般社団法人西尾市観光協会	佐久島を中心としたサステナブルツーリズムの推進、ヘルスツーリズムの推進等における連携
西尾信用金庫	SDGs の推進を含む包括連携協定を締結
	エシカルなアート制作
人間環境大学	佐久島活性化に関する活動全般
AZAPA エンジニアリング株式会社	企業版ふるさと納税(佐久島活性化事業)
日本郵船株式会社	企業版ふるさと納税(佐久島活性化事業(藻場再生活動))
佐久島及び西尾市でフィールドワークを行う教育機関	学生のアイデアを積極的に取り入れたSDGs関連事業の展開

(5) 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

(事業スキーム)

「自然が人を育むスタイルの構築～佐久島から始まる西尾のSDGs～」に基づくSDGs未来都市にしおの実現に向けた取組を進める上で、また、モデル事業「素材は離島！ 佐久島(離島)×未来を担う若者＝エシカルなアート」の取組を効果的に進める上で、将来的に補助金に頼らずに自走を目指すために、離島の豊かな海・自然の「環境」の魅力を保全・活用・継承することにより「地域の価値向上」を図り、それを本市の魅力や資源を生かした観光交流や関係人口の拡大等により「地域経済の活性化」につなげ、市民のSDGsへの関心度を高め、環境保全活動などへの参加者数が増加する「社会」を形成するという好循環を形成していくことが必要である。

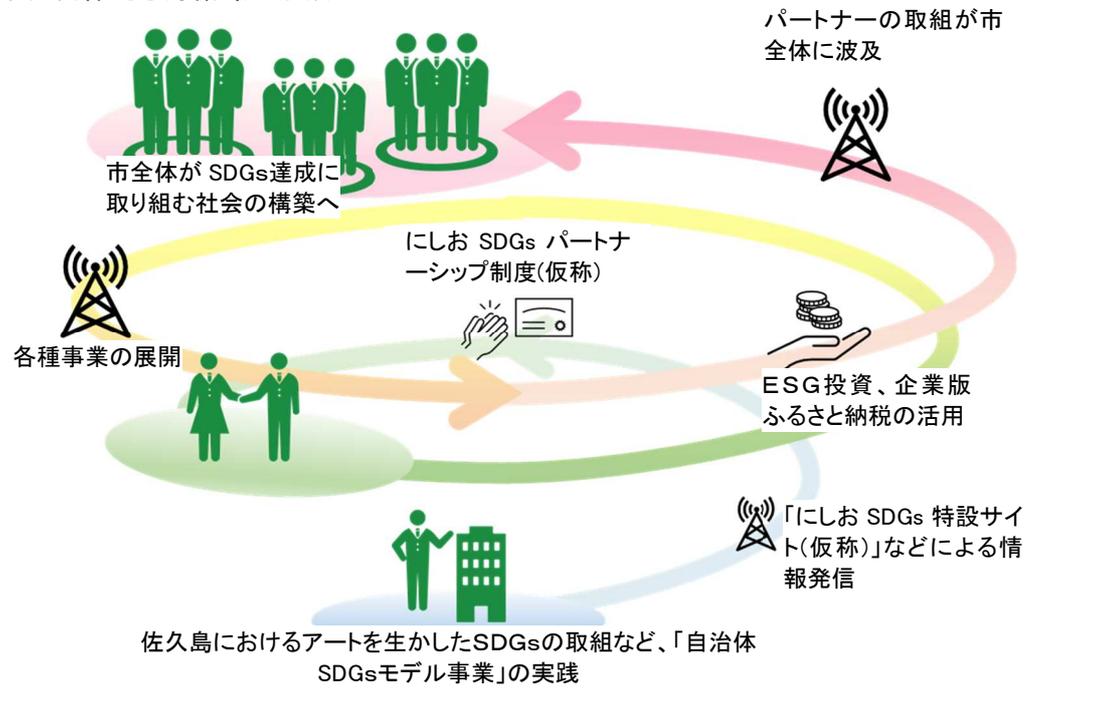
そのため大学との連携による作品性の高いアートの制作や市内商業施設における展示イベントの開催、「にしおSDGs特設サイト(仮称)」の制作などにより、離島ならではのSDGs実践の取組のプロセスや成果を広く発信することで、「経済」「社会」「環境」の相乗効果を生み出すとともに、「環境」の価値が「経済」的な価値に結びつくモデルを構築することで、島民・市民、団体、企業・事業者等による自走的な取組へとつなげていく。

また、佐久島を中心とした「小さな島からはじまるSDGsの取組」を西尾市全域に波及・展開することで全市的な自立循環型のSDGsの取組へと広げていく。特に、民間企業との関わりにおいては、創設を検討する「にしおSDGsパートナーシップ制度(仮称)」の状況や民間企業等の事業活動内容等を広く情報発信することにより、市民や市場に対する認知度を高め、民間企業が率先してSDGsに資する取組を進めていくことができるよう自律的な好循環を形成していく。

(将来的な自走に向けた取組)

将来的な自走に向けて、西尾信用金庫などの金融機関と連携したSDGsに取り組む民間企業や事業者へのESG投資、地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)の活用、離島の自然や暮らしに魅力を感じる域外住民による個人版ふるさと納税等の寄附金、取組を通じて創出・拡大を図る関係人口などファンの獲得につながるクラウドファンディング等を活用することにより、市の財政支出を抑制し自立的な好循環を創出していく。好循環の拡大が税収増につながり、必要な財源が確保され、事業の持続可能性が高まることを目指す。ふるさと納税やクラウドファンディングの活用については、本モデル事業の取組内容と合わせて「にしおSDGs特設サイト(仮称)」を通してPRL、寄附額の拡大を図り、事業の財源として活用する。

図 自律的な好循環の形成



(6) 自治体SDGsモデル事業の普及展開性

(他の地域への普及展開性)

西尾市では、「佐久島におけるアートを生かしたSDGsの取組」などを先導的に実施し、佐久島の自然や海洋環境を保全・継承していくとともに、その魅力を活用した観光交流を促進することにより島内経済の発展を図り、多様な主体が共生し安心して暮らし続けることができる持続可能な離島の地域づくりを実現することを目標とし、こうした離島を起点としたSDGsの取組の輪を本市全域、市外の他地域へ普及展開していく。

普及展開は、以下の取組を通して実施していく予定である。

- ・モデル事業「素材は離島！ 佐久島(離島)×未来を担う若者＝エシカルなアート」の取組について、「にしお SDGs 特設サイト(仮称)」により一元的な情報の集約・管理・発信を行う。
- ・本市を含む9市1町からなる西三河地域においては、既にSDGs未来都市に選定されている豊田市や岡崎市、安城市などとの情報共有を行うことをはじめとして、西三河地域全体での情報共有や意見交換を行う。
- ・外国人観光客に対しても、佐久島・市内でのアートを周知し、本市のSDGsの情報発信を行う。

(7) 資金スキーム

(総事業費)

3年間(2023～2025年)総額: 36,488千円

(千円)

	経済面の 取組	社会面の 取組	環境面の 取組	三側面を つなぐ 統合的取組	計
2023年度	16,000	1,000	12,018	15,000	44,018
2024年度	16,000	36,100	2,600	500	55,200
2025年度	16,000	3,000	2,600	500	22,100
計	48,000	40,100	17,218	16,000	121,318

(活用予定の支援施策)

支援施策の名称	活用予定 年度	活用予定額 (千円)	活用予定の取組の概要
デジタル田園都市国家 構想交付金(内閣府)	2023～ 2025	15,000	カラフルツーリズムに関連するデジ タルを活用した観光プロモーション に活用予定。(申請済)
企業版ふるさと納税	2023～ 2024	3,000	アマモ移植による藻場の再生活動 に係る取組について活用。

(民間投資等)

- ・企業版ふるさと納税を活用した佐久島活性化事業の推進を検討中である。
- ・西尾信用金庫と連携し、創設する「にしお SDGs パートナ制度(仮称)」への登録企業・団体を対象とした ESG 投資を検討する。

(8)スケジュール

	取組名	2023 年度	2024 年度	2025 年度
統合	にしお SDGs プラットフォーム(仮称)構築事業	プラットフォームの構築 (プラットフォーム構成員の検討/立上げ/新規事業の 企画・立案)、運営 	プラットフォームの 運営(新規事業の企 画・立案・実行) 	プラットフォームの 運営(新規事業の企 画・立案・実行) 
経済	①—1 エシカルなアート展示イ ベント事業	イベントの企画・立案・開催 	他地域での展開の 企画・立案を検討 	イ他地域での展開の 企画・立案を検討 
経済	①—2 「サクのいも」栽培・特 産品開発事業	「サクのいも」栽培・収穫/特産品開発・販売 	「サクのいも」 栽培・収穫/特産 品開発・販売 	「サクのいも」 栽培・収穫/特産 品開発・販売 
経済	①—3 カラフルツーリズム事 業	デジタルマーケティングによる観光プロモーション 	デジタルマーケティ ングによる観光プロ モーション 	デジタルマーケティ ングによる観光プロ モーション 
社会	②—1 環境学習推進事業	環境学習機能の強化/環境学習の実施 	環境学習の実施(大 島公園の整備) 	環境学習の実施(大 島公園の整備) 
社会	②—2 市民の居場所・活動の 場の提供事業	各相談窓口の連携強化/外国人への日本語指導/農福連携事業 		

社会	②—3 地域おこし協力隊の活用	地域おこし協力隊制度を活用した 多様な主体の参画による地域づくり	地域おこし協力隊 制度の活用を継続	地域おこし協力隊 制度の活用を継続
環境	③—1 海洋・里山環境保全事業	藻場の再生／里山の保全／海岸の漂着ゴミ清掃 ローカル SDGs 事業の情報発信 佐久島での取組の全市展開(ブルーカーボン事業)	藻場の再生／里山の 保全／海岸の漂着ゴミ 清掃 ローカル SDGs 事業 の情報発信	藻場の再生／里山の 保全／海岸の漂着ゴミ 清掃 ローカル SDGs 事業 の情報発信
環境	③—2 アート制作事業	海岸の漂着ゴミ等の回収／アート制作	アート作品の他地域 での展開を検討	アート作品の他地域 での展開を検討

2023年度SDGs未来都市全体計画提案概要(提案様式2)

提案全体のタイトル: 自然が人を育むスタイルの構築～佐久島から始まる西尾のSDGs～

提案者名: 愛知県西尾市

全体計画の概要:

西尾市の豊かな自然を保全・継承することで、本市の魅力である豊かな自然を背景とした暮らしを市民の「生きがい」「健康」「学び」「働きがい」へと発展させ、経済活動や環境保全活動を促すとともに、その魅力を観光交流の促進へ波及させて地域経済を活性化し、多様な主体が共生できる持続可能な地域社会の実現を目指す。

1. 将来ビジョン	地域の実態	2030年のあるべき姿		
	西尾市は有人離島の佐久島を有する自然豊かなまちであり、こうした魅力を次世代に受け継ぎ守っていくため、自然環境の保全や低炭素・脱炭素の社会づくりを進めていくとともに、自動車関連産業を中心とした産業構造の多角化を図りつつ、多様な人々が共生できる地域を築いていくことが課題となっている。	<p>「豊かな自然」「生きがい」「健康」「学び」「働きがい」につなぐ社会の構築 本市の魅力である「豊かな自然」を保全し、磨き、活用することで、生き生きとした健やかな人々を増やし、新たな経済活動や環境保全への行動を生み出す社会を目指す。</p>		
	2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット	<p>【経済】 豊かな自然を生かした魅力ある働く場、生きがい・働きがいのあるまちづくり 【社会】 新たな学びや試みに挑戦する人が活躍できるまちづくり 【環境】 持続可能な社会を支える重要な基盤である豊かな自然の保全と活用</p>		
2. 自治体SDGsの推進に資する取組	自治体SDGsに資する取組	情報発信	普及展開性	
	<p>【経済】 稼ぐ力の強化／農水産物のブランド化／自然・文化資源を生かした観光交流の促進／産業革新のサポート 【社会】 多様なステークホルダーの連携による推進体制の構築／誰一人取り残さない居場所づくり／若者・女性・高齢者など多様な主体が活躍できる地域づくり 【環境】 自然環境の保全・活用／ごみの減量・資源化／低炭素・脱炭素の地域づくり</p>	<p>【域内向け】 にしおSDGs特設サイト(仮称)の制作／SNS、普及啓発チラシ等を活用した情報発信 【域外向け】 イベント等を通じた周知・啓発／SDGs未来都市に選定されている西三河地域都市との情報共有や意見交換 【海外向け】 本市が特産品の販路開拓を展開するタイ等において、取組との連携を図りつつ、海外に向けて本市のSDGsの情報発信を行う。</p>	<p>人口減少・少子高齢化が急速に進行し、気候変動等により豊かな自然・生態系が脅かされるなど、将来の我が国の課題先進地である離島・佐久島を中心とした自然環境を市民の生きがい等へ循環させる取組は、今後、国内の有人離島や人口減少が見込まれる多くの地方都市で展開することが可能である。</p>	
3. 推進体制	各種計画への反映	行政体内部の執行体制	ステークホルダーとの連携	
	<p>「第2期西尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略(2021年3月)」及び2023年度を始期とする「第8次西尾市総合計画」において、SDGsの視点を取り入れた改訂を実施した。また、市民や事業者などさまざまなステークホルダーとSDGsを推進する機運を醸成するため、西尾市版ローカルSDGsの指針となる「にしおSDGsアクションプラン」を2022年度中に策定予定である。</p>	<p>市長を本部長、副市長を副本部長とし、その他各部署局長で構成する「西尾市SDGs推進本部(仮称)」を設置し、SDGsの推進を各部課の横断的な連携により全庁的に取り組む体制を構築する。</p>	<p>【日本郵船(株)他6主体】SDGs関連事業へ企業版ふるさと納税／【西尾信用金庫他6主体】SDGs関連の連携協定など。 西三河地域のSDGs未来都市との連携。 離島を所管する自治体との連携。 特産品の販路開拓をしているタイ等との連携。</p>	
	自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等	<p>SDGs普及啓発チラシを全戸配布し、市全体でSDGsを推進する機運を醸成し、自律的好循環のきっかけを作る。民間企業等の率先したSDGsの取組を進めていくため、SDGsの理念に相応しい活動を行っている企業等をパートナーとする「にしおSDGsパートナーシップ制度(仮称)」を構築する。併せてオリジナルロゴマークを作成し、パートナーに使用してもらうことで、SDGsの普及促進を図る。また、民間企業等を対象に、SDGsを理解する勉強会やセミナーなどの機会を提供し意識改革を促していく。</p>		

2023年度自治体SDGsモデル事業提案概要(提案様式3)

自治体SDGsモデル事業名: 素材は離島! 佐久島(離島) × 未来を担う若者 = エシカルなアート

提案者名: 愛知県西尾市

取組内容の概要: 過疎高齢化が進む離島「佐久島」から、多様なステークホルダーとともに島特有の社会や環境、地域を配慮したエシカルなアートを制作し、島内及び市内の商業施設等で展示し、SDGsイベントを併せて開催することで、市全体でSDGs達成を図る機運醸成と関係・交流人口の増加、消費の拡大といった地方創生につなげる。

